

豊中市立第十五中
学校だより

一期一会



スマホ・SNSのこまめな方 5/12 情報モラル講演会



→ 講師の篠原嘉一さんには、4年連続でお越しいただきありがとうございます。警察との連携のお話でした。

※ 現在、人名用漢字に「達」はなく、生まれてきた子どもの名前「達」を使うことは、今ではできません。

【生徒のみなさんへ】

「このアプリについて知ってる人は？」……テンポ良くくり出される篠原さんの質問に生徒の手が上がりまふ。

SNSの履歴等は、捜査により復元され、罪を犯せば大きな代償を払ってしまうという話には、真剣に聞き入るまなざしがありました。

スマホ・SNSと上手につきあうためには「危険情報を常にアップデート」していくことが欠かせません。

講演の中からの言葉を4つ紹介します。みなさんなりに自ら考え、行動していきましょう。

● 見られて困る内容は絶対に投稿しない。

● 顔を見たことのないネットの相手を信用しない。

● スマホに表示される情報は人それぞれに違う。

● 生活の中でのトラブルや悩みは早めに保護者、先生に相談する。

【保護者のみなさまへ】

～対話と監督のお願い～

未成年の子どものスマホ・SNSの安全は、学校で教え、考えていくことはもちろん、第一の責任者である保護者の協力なしには守れないと強く感じています。

親子の対話と保護者による監督義務をお願いするとともに、自分の子どもだけでなく、校区の子どもの安全や幸せにも関心を持っていただければ幸いです。

○ 定期的に使用状況を子どもに説明させましょう。

○ 危険な（不要な）アプリを消去し、管理をしましょう。

○ 正規ルート以外で（教えてもらったURLなどから）アプリをインストールしないようにしましょう。

○ SNS、アプリの危険情報は常に新しく更新し、使用やインストールについては細心の注意を払いましょう。

↓ 自分や友人などの個人情報や画像などを守る。

↓ 金品のやりとり、違法な金

もうけ、人権侵害、知らない人や犯罪者とながる使

い方を避ける。

【「賢いカ」をつけるために】

篠原さんのお話には、「家族やいろんな人と話をしてください。TVや新聞等のニュースに触れてください」という言葉がありました。

スマホやSNSでは、自分の好きな情報に囲まれてしまふこと（フィルターバブル現象）や、気の合う仲間との交流に偏ってしまうこと（エコチェンバー現象）があり、それが孤立や対立の原因となることとがあると言われています。

「最近、印象に残るニュースは何ですか？」と聞いたところ、全く答えられない、または、かなり以前のニュースを答えた生徒が多かったです。

その時、TV、新聞、インターネットニュースなど複数のメディアから、今のニュース、社会や世界を知ることの重要性を感じました。

知ったことについて、家族、学校や地域の人たちと対話をするにより、より視野を広げ、「賢いカ」をつけることが大切です。



ことばの泉⑥ 達か達か

「達」は小学校4年生で習いますが、漢字テストでは「友達」と書いてしまうと、横画が一画不足しているために「間違い」と判定されます。

しかしながら、古くは「達」も「達」も使われており、苗字では「安達」さんのほかに、一画少ない「安達」さんもおられます。※

ゆえに漢字テスト以外の場面で、「達」が絶対に正しく、「達」は誤字だと決めつけるのはどうかと思います。

漢字5万字、熟語53万語を収録した「大漢和辞典」には、「松」と同じ漢字として「栜、桧、栢」などの漢字がのっており、古文書や書作品においてもこれらの漢字を目にすることがあります。

基準に沿った理解を問うのが漢字テストで、その外側には「広くて深い漢字の世界」があるのだと思います。